

《芽ばえ賞》

「理解し合う心の大切さ」

有田市立箕島小学校 6年

伊藤 宥征 さん

ぼくは、認知症のことを学習する前、認知症は、すぐに物事を忘れ、絶対に治らない病気だという知識がありませんでした。しかし、「認知症分かり隊養成講座」を受け、認知症には、二つの種類があり、さまざまな症状があることを知りました。今まで出来ていたことが出来なくなる、覚えられない、忘れてしまうといった絶対に治らない「中核症状」と、道に迷って家に帰れなくなる、トイレの失敗など、周りの人の助けで改ぜんされる「行動・心理症状」があることを勉強し、認知症の方には、やさしく、おこらず、笑顔で気持ちを理解し、よりそってあげることが大事だと学びました。ぼくには、九十五さいと八十九さいの、ひいおばあちゃんがいます。いつも会うと、色々お話をするのですが、すぐに忘れてしまい、同じことを何回も言って来ます。でも、いやな顔をせず、笑顔で、寄りそってあげること、ひいおばあちゃんも元気になり、喜んでくれると思います。

認知症の方との交流があり、自分のめあてをたてました。以前の学習も生かして、めあては、「楽しく、笑顔を意識し、認知症の方にも思い出に残る交流会にする」です。このめあての自分の思いは、認知症の方は、自分の思いで、行動しているわけではないし、それを理解してあげて、笑顔で寄りそってあげるということです。

交流会当日、認知症の方と楽しい時間を過ごすことができるかなと不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、思っていたよりも、認知症の方明るく接してくれました。ぼくは、気持ちを理解し、笑顔で接しました。いっしょにゲームなどをして、遊びました。と中何回も、名前を聞かれましたが、一回一回笑顔で、答えるようにしました。最後には、いっしょにあく手をしました。認知症の方にとっても楽しく過ごしてもらえていたらうれしいです。

もし、家族のだれかが認知症になったら、ぼくは、この交流会を生かして、サポートしていきたいと思えます。これからますます認知症の方が増えてくると予想されています。ぼくに何ができるかを考えた時、やはり笑顔で寄りそってあげる、気持ちを理解してあげるといふことだと思えます。これからは、認知症の方との接し方などを知らない人に伝えて行きたいです。よりよい未来と
なって行けば良いなと思います。